

豪ドルおよびニュージーランドドル為替相場について

2007年3月11日

【豪ドル：先週の動きと今後の注目ポイント】

対米ドル相場：小幅続落



- ・週末引値：0.7801（前週末比-0.2%、昨年末比-1.1%）
前週が1.2%の下落となったのに続いて、先週も小幅ながら下落しています。2月末対比では1.0%下落しています。
 - ・対NZドル週末引値：1.1296（前週末比-0.6%、昨年末比+0.8%）
前週の1.4%上昇の後、先週は反落しています。2月末対比では0.6%上昇しています。
- 「国内経済指標等」
- ・6日（火）：1月貿易収支8.76億豪ドルの赤字、市場予想よりも赤字幅縮小。前月比では4.6億豪ドルの減少。輸出の増加と輸入の減少が寄与。1月住宅建設許可件数-0.9%（前月比）、-1.0%（前年同月比）。
 - ・7日（水）：豪州中銀政策金利決定会合で金利据え置き。市場予想通り。第4四半期GDP+1.0%（前期比）、+2.8%（前年同期比）、市場予想を上回る。

今週は15日に2月雇用統計が発表予定です。

「テクニカル分析等」

週初に急落し、今年の安値を僅かながら更新した後、反発を続け、週初の高値水準を若干上回って引けています。ボリンジャーバンド（2シグマ）はほぼ横ばい推移となり、レンジ相場が続くことを示唆しています。週足は下ヒゲの長い小さな陽線となりました。2006年3月安値を起点とした支持線は、一瞬割り込んだものの、機能しており、一方では0.79台では週足の上ヒゲが連なり、上値の重さを示唆していることから、依然として0.77台～0.79台のレンジ相場が続く可能性が高そうです。

対円相場：反発

- ・週末引値：92円29銭（前週末比+1.1%、昨年末比-1.8%）
前週が4.7%という極端な下落となった後、先週は反発となっています。



「テクニカル分析等」

週初に急落し、いったんは200日移動平均線を下抜け、昨年10月以来の安値となった後、大きく反発しています。ボリンジャーバンド（2シグマ）は急拡大しており、依然として不安定な相場が続くことを示唆しています。週足は下ヒゲの長い大きな陽線となりましたが、前週のもっと大きな陰線とやや重なり合いながら、下方に位置しています。一気に下落を続ける可能性は後退したものの、週足のチャンネルに支配されるとすれば、2004年6月を起点とした支持線を下限としながら、戻り高値は93円台前半を通るラインに上値を押し上げられることになりそうです。右上の月足（直近3月足は9日まで）は重要です。現状では下ヒゲが長い陰線となっていますが、今月の下ヒゲの残り具合や陽線・陰線の程度によって、来月以降の展開が示唆されることでしょう。



【ニュージーランドドル：先週の動きと今後の注目ポイント】

対米ドル相場：小幅反発



・週末引値：0.6906（前週末比+0.4%、昨年末比-1.9%）
前週が2.6%下落となった後、先週は小幅反発しています。2月末対比で1.5%下落しています。

「国内経済指標等」



・8日（木）：中央銀行が政策金利決定会合の結果、7.5%（0.25%の利上げ）を決定。市場予想通り。今週は13日（火）に1月小売売上高、15日（木）に2月非居住者国債保有率が発表予定です。

「テクニカル分析等」



週初に今年の安値を下抜け、昨年11月以来の安値となったものの、ボリンジャーバンド（2シグマ）の下限に下値を押さえられ、その後は反発に転じています。バンド幅はやや拡大しているものの、概ね横ばい推移となっており、当面はレンジ相場が想定されます。20日および60日移動平均線のある0.6940をクリアに上抜けると、やや上値余地は拡大しそうです。週足は、非常に下ヒゲの長い陽線となっています。

前週の大きな陰線とやや重なりながら下方に位置しており、今後の下ヒゲの潰され方次第では、再び下落する可能性が高まるでしょう。また、過去のレポートに記したように、今回の上昇の高値が今のところ0.71近辺に留まっていることにより、2004年2月高値0.7099を「左肩」、2005年3月高値0.7466を「頭」とした「ヘッド&ショルダー」パターンの形成が意識されています。

対円相場：大幅反発



・週末引値：81円70銭（前週末比+1.7%、昨年末比-2.5%）
前週の6.1%という極端な下落の後、先週は相応に大幅な反発となっています。2月対比では1.7%下落しています。

「テクニカル分析等」



週初に急落し、200日移動平均線まで達し、昨年11月以来の安値に達した後、急速に反発しています。ボリンジャーバンド（2シグマ）の上限が上昇、下限が拡大することによって、急速に拡大していますが、再び縮小する兆しも出始めています。週足は、下ヒゲの長い陽線となっていますが、前週の非常に大きな陰線の印象を打ち消すほどのものとはなっていません。日米蔵相会談が終わり、NZ中銀利上げ後の材料出尽くし売りの懸念も後退したことから、目先の下落狙いのNZドルショート



が踏み上げられた格好になっています。今回下げ止まった77円台半ばは、前回レポートにも記したように、200日線と昨年11月から12月の安値が並んでいる水準であり、2005年11月高値87円11銭から2006年5月安値67円82銭の重要なフィボナッチポイントである50%水準となっています。

今後の上値目処は、週足のチャネルから見ると82円台半ば、直近の高値から安値の61.8%戻しに相当する81円70銭前後となりそうです。一方、下値目処については、先週の下ヒゲを潰すのは相応のエネルギーが必要になりそうですが、それを下抜けた場合には2005年11月高値から2006年5月安値の38%戻しに相当する75円台前半となりそうです。

（石井 貢）